

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-820	14-148	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Alcohol consumption as a preventive factor for developing rheumatoid arthritis: a dose-response meta-analysis of prospective studies. 慢性関節リウマチの進行を予防する因子としての飲酒：前向き研究の用量反応メタ分析		
執筆者		
Jin Z, Xiang C, Cai Q, Wei X, He J.		
掲載誌		
Ann Rheum Dis. 2014 Nov;73(11):1962-7. doi: 10.1136/annrheumdis-2013-203323.		
キーワード	PMID	
慢性関節リウマチ (RA)、用量反応、メタ分析	23897767	
要 旨		
目的： 先行研究によると飲酒が慢性関節リウマチ (RA) の進行に予防的な効果があるとの報告もなされているが見解は一致していない。そこで、飲酒と RA リスクの関連を定量的に評価している研究を用いてメタ分析を実施した。		
方法： 2 人の調査者が MEDLINE、Embase および Web of Science database を用いて 1946 年 1 月 1 日から 2013 年 4 月 10 日の間に公表された文献および学会抄録、論文の文献リストから、飲酒と RA およびそれらの関連語句を含む文献について検索し 2,456 編の文献と 2 編の学会抄録を選択した。飲酒量と RA についての情報がない文献 1,746 編と二重に抽出した文献 676 編を除外した 34 の文献と 2 編の学会抄録のうち、症例対照研究やメタ分析を除いた 5 編の前向き研究とコホート内ケース・コントロール研究 3 編について、飲酒と RA の統合相対危険度(RR)を検討した。		
結果： メタ分析に採択した 8 研究は、合計 195,029 人の参加者と 1,878 名の RA 症例を含んでいた。少量・適量の飲酒は、非飲酒に比して RA リスクに予防的な影響があり (RR : 0.86 ; 95%信頼区間(CI) 0.78-0.94)、スプライン関数を用いた検討では飲酒量と RA リスクには非線形の関連があった。1 日の飲酒量で 8 群に分けた検討では、RA リスクの調整 RR は非飲酒と比して、3g/日で 0.93 (95%CI 0.88-0.98)、9g/日で 0.86 (95%CI 0.76-0.97)、12g/日で 0.88 (95%CI 0.78-0.99)、15g/日で 0.91 (95%CI 0.81-1.03)、30g/日で 1.28 (95%CI 0.94-1.73) であった。サブグループ分析では、女性において少量・適量の飲酒は RA リスクを 19%減少し、性に関係なく 10 年間以上にわたる少量・適量飲酒は RA リスクを 17%減少した。		
結論： 少量・適量飲酒は、用量依存的、飲酒期間依存的、性依存的に RA リスクを減少させる可能性が示唆された。遺伝子要因との相互作用を調査する大規模前向き研究によって RA 病因学のさらなる解明が求められる。		